



## 調査①人工冬眠

人間もクマみたいに冬眠ができる日がいつかやってくる？ もともと冬眠しないマウスを、人工的に冬眠に似た状態にすることができる神経回路が発見されたんだって！ もし人工冬眠の技術が実現したら、医療の現場で多くの命が助かるし、宇宙のかなたへ旅することもできるかも♪



どうして冬眠中は代謝が極端に下がっても臓器がいたまないのか、ナゾだらけ。研究テーマがたくさんあります！



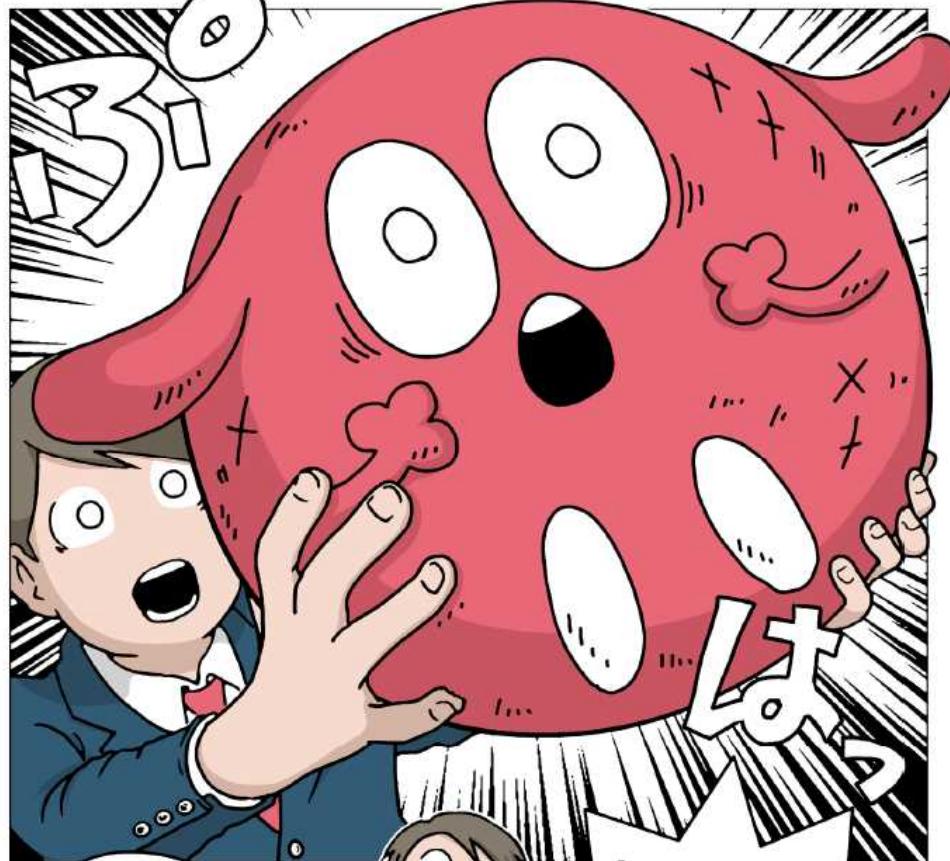
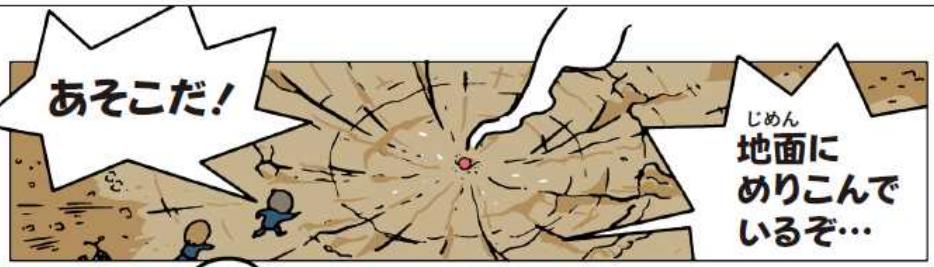
### お話をうかがった先生

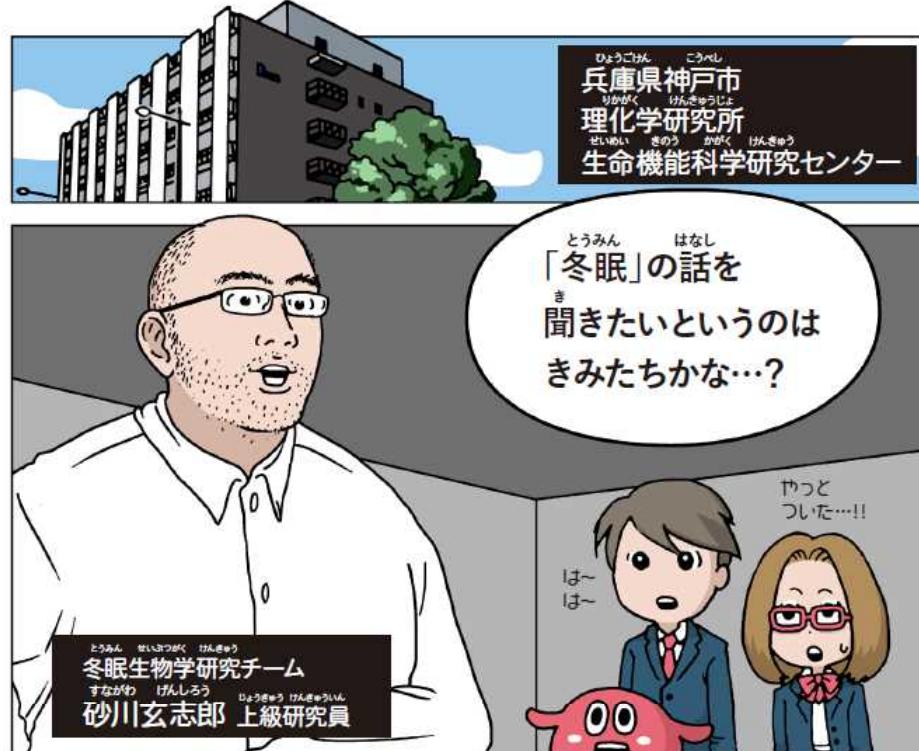
理化学研究所生命機能科学研究センター  
冬眠生物学研究チーム チームリーダー

砂川 玄志郎 先生

2001年から小児科医として緊急医療や集中治療にたずさわったのち、大学院に進学し、06年から睡眠の研究をスタート。13年より理化学研究所へ。22年10月より現職。医療応用を視野に入れた人工冬眠の研究をめざしている。医学博士。

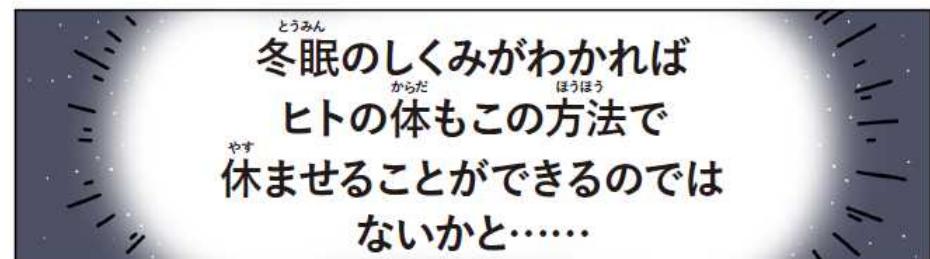


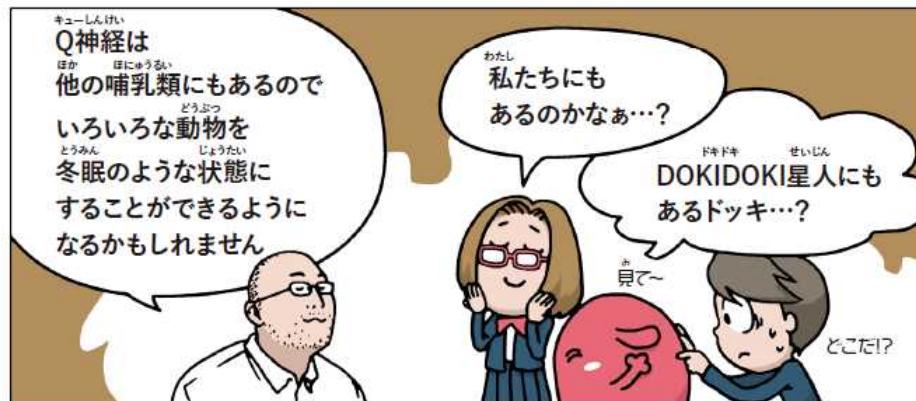




生命科学DOKIDOKI研究室 / Science Manga Studio (2021)  
※あくまでもマンガの話です



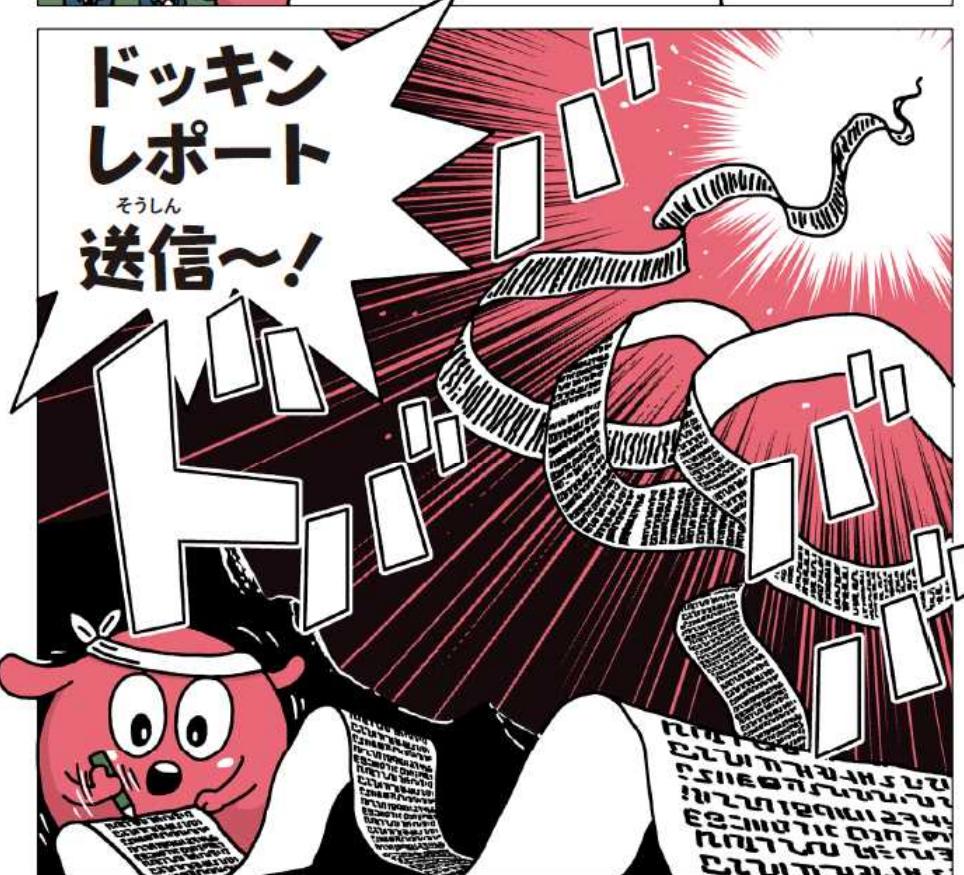
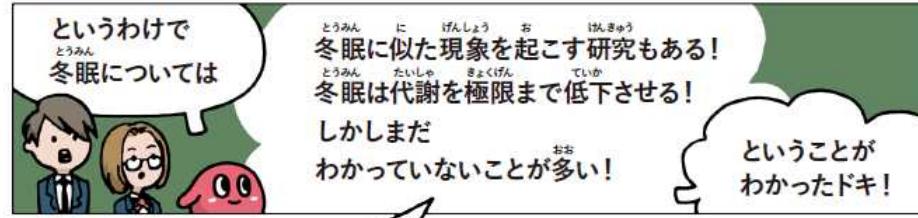




生糸科学DOKIDOKI研究室 / Science Manga Studio (2021)



生糸科学DOKIDOKI研究室 / Science Manga Studio (2021)



冬眠する動物としない動物がいるよ。  
動物たちはどんな状態で冬眠しているんだろう?

大型  
冬眠動物  
とうみんどうぶつ



小型  
冬眠動物  
とうみんどうぶつ



冬の間、ずっとグッスリ

体温は31~35°C近くに低下

飲まず食わずの絶食状態

冬眠中の体温は外気温近くまで低下

時々起きてエサを食べる

中途覚醒時の体温は37°Cまで上昇

動物が活動を停止して冬を過ごすのが冬眠。カエルやカメのような変温動物のほか、体温を一定に保つことができる恒温動物でも、クマやリス、ヤマネ、ハムスター、コウモリなどは冬眠する。リスなどの小型動物は、10°C以下にまで体温が下がる「深冬眠」と途中で何度も起きてエネルギーを補給する状態を繰り返す。大型のクマは体温の低下は数°Cくらいで春まで目覚めない。動物によって冬眠のしかたに違いがあるよ。

冬眠状態にしたマウスの体温を調べてみると…



① 冬眠の状態で誘導したマウス(右上)と通常のマウス(左下)。

② 物体から放射される赤外線の量を測り、温度を可視化したサーモグラフィーを見ると、高溫の領域は赤く、低温の放射線が弱い部分は青く表示される。Q神経を興奮させて冬眠に似た状態にしたマウスは、体温が大きく低下していることがわかる。

Q神経を刺激したマウスは、約30分で冬眠に似た低代謝・低体温状態になり、その状態を数日間にわたって維持できる。その間にも食べなくても、後遺症もなく正常状態に戻るんだって!

くわしい記事は  
コチラ!

